



「市長にふさわしくない。出馬やめ身を引くべき」



中山市議が吉田市政の4年間検証



市長をただす中山いくみ市議(9月9日)メモらしきものを読み上げる吉田市長

9月議会報告

9月10日、福岡市議会で日本共産党の中山いくみ市議が質問にたち、この4年間で、市政の各分野で吉田市長が市民の期待を裏切り、公約違反を重ねてきたことを明らかにしました。

子ども病院の人工島移転 子どもの命と健康守れぬ

中山市議は子ども病院の人工島移転を見直すのが市長公約だったと指摘。ところが市の幹部だけで成る検証チームをつくり、わずか1年でゴーサインを出しました。市民は25万筆の署名で反対しましたが市長は拒否。「明らかに公約違反」「子どもの命と健康は守れぬ」と追及すると市長は「検証の結果、適地だった」と答えました。

また市側は移転決定の過程をめぐり住民訴訟がおきている問題について「手順をふんできた。一部の人は理解せず訴訟した」と答弁。移転反対の多数の世論を敵視しました。

人工島事業にしがみつき 福祉・教育をきりすて

また、中山市議は、吉田市長が「土地を造って売るといふ手法に限界がある。金を呼び込むための開発にさようなら」と公約したにもかかわらず、人工島の埋立をつづけ、土地も売れずに叩き売りしていることを批判。

他方で、市立病院の独立行政法人化で医師・看護師不足が生じた問題や、「中止の方向で見直す」とした公立保育所の民営化を強行したことを指摘しました。

中山市議は、吉田市長が教育予算削減による学校の老朽化、今年度の国保料値上げなど「住民の福祉の増進」という自治体本来の仕事の予算や職員を削った事実をあげました。

財界やオール与党に「心耳をすます」市長

市民の声を聞くといながら「心耳をすまして」きたのは財界やオール与党の声だけだったと、中山市議は市長を追及。「市長にふさわしくない。出馬をやめ身を引け」と迫りました。

中山質問 新聞でも話題に

この質問は11日付の「西日本」「読売」でとりあげられ、20日付「毎日」夕刊の特集でも冒頭で紹介されました。

請願

| 件名 | 請願者 |
|--|-------------------------------|
| UR 賃貸住宅を国が責任を持つ公共住宅として継続させることを求める意見書議決について | 福岡公団住宅自治会協議会 (20人) |
| 労働者保護の後退につながる労働行政の地方移譲は行わないことを求める意見書議決について | 福岡中央公共職業安定所分会 |
| 愛宕小学校への特別支援学級の設置について | 愛宕小学校に特別支援学級を設置する会 (860人) |
| 新病院基本構想の白紙撤回及び子ども病院、福岡市民病院を市直営に戻すことについて | 子ども病院の人工島移転に反対する連絡会 (37,385人) |

意見書

少人数学級、熱中症対策が採択 コメ戸別所得補償うちきりに共産反対

- 子宮頸がんを予防するワクチン接種の公費助成及び受診率向上対策の充実を求める意見書
- 公契約に関する基本法の制定を求める意見書
- 新たな経済対策を求める意見書 (以上全会一致で採択)
- 来年度予算編成において少人数学級の実施を求める意見書 (採択。賛成=共・自・公・民・ネ・社・福・平、反対=み)
- 熱中症への緊急対策を求める意見書 (採択。賛成=共・公・民・ネ・社・福・平、反対=自・み)
- 米価下落への緊急対策を求める意見書 (採択。賛成=自・公・み・福、反対=共・民・ネ・社・平)



日本共産党は少人数学級、熱中症対策(生活保護への夏季加算など)の意見書を立案。自民・公明などの米価対策の意見書は、コメの戸別所得補償のうちきりを求める中身だったので反対しました(写真はその反対討論をする星野美恵子市議)。

日本共産党 福岡市議団

児童虐待をくり返させないために

9月13日、ひえじま俊和市議（博多区選出）は、一般質問に立ち、市の児童虐待対策などについてたどりました。



ひえじま市議が質問

激増する児童虐待 児童福祉司の抜本増を

ひえじま市議は、全国で児童虐待事件が激増し、福岡市でも前年度比45%増、過去最多となり、昨年度は6人の子どもが亡くなっている事実を指摘。本市の虐待を受けた子どもたちの背景調査を示して、その根本には社会的貧困があるのではないかとたどしました。

市「重く受け止める」 体制強化と能力向上を

ひえじま市議は、事件がくり返されることについて市長の責任を追及するとともに、福岡市でなぜ反省が生かされずにくり返されるのかと問い、虐待対応にあたる児童福祉司が少なく、1人で110件も受け持つ実態を告発しました。さらに、職員の異動が激しく経験年数が浅いままに事件に対応する現状を批判。博多区での虐待死の分析調査をもとに、虐待に気づく能力

を向上させる方策を提案しました。市長は「重く受け止めたい」と答弁。「こども総合相談センターの体制充実、能力向上に努めたい」（こども未来局長）との市の答弁を得ました。ひえじま市議は、虐待防止策として保育園、学校、保健所、病院などのネットワークをつくることの重要性をのべ、今ある地域協議会を職員体制を強化して校区ごとに開くことを提案しました。他に、月隈小・那珂小の学校施設改善についても質問しました。



住宅リフォーム助成など 真に役立つ経済対策を

質疑をする熊谷あつ子市議（9月9日）

熊谷市議が質問

9月9日、福岡市議会で日本共産党の熊谷あつ子市議が議案質疑に立ちました。

年少扶養控除の廃止で 保育料などアップが…

民主党政権が子ども手当の財源と称して年少扶養控除の廃止。その結果、子ども手当を受けても負担増になる世帯があること、控除廃止で所得はかわらないのに保育料等が引き上げになるおそれがある

市の雇用対策は非正規で コマ切れ 正規の仕事

吉田市政がうちだした緊急雇用

住宅リフォーム助成 秋田県で高い経済効果

日本共産党市議団は秋田県が始めた住宅リフォーム助成を調査。熊谷市議は地場の中小企業を中心

住宅リフォーム助成で 秋田県・札幌市を調査



秋田県当局に調査する共産党市議団。秋田県全体の予算総額は福岡市の70%程度です。

対策は、期間を区切った細切れのものばかり。中身も「就学進路相談」や「ひきこもり支援」のような、市が本来正規職員で対応すべきものがほとんどです。熊谷市議は「じっくり相談にのり丁寧に対応すべきもの」「正規職員として雇うべき」「正規で安心できる賃金にしてこそ、内需が拡大し経済も立て直る」と指摘しました。市は「専門性が必要なので委託した」と答弁しました。

吉田市長は対象工事を狭く限定したために活用が少ない福岡市の制度をもちだして導入を拒否。秋田のような助成は「特定業種の応援となり不公平」として背を向けました。

9月議会各党の態度は… 市長かばう民主・社民 対決軸を示せぬ自民・公明

民主党は吉田市政は公約を守り評価が高まっているかのような擁護質問をおこない、社民党は議会開催中に「吉田支持」を打ち出しました。

「対立」候補を出す自民党・公明党などは、吉田市政との対決を打ち出す質問や論戦をまったくおこなうことができず、日本共産党をのぞく議会勢力が、吉田市政を支える「オール与党」状態になっている実態が浮き彫りになりました。

9月議会での主な議案への賛否

| 会派名 | 日本共産党 | 自由民主党 | 公明党 | 民主市民クラブ | みらい福岡 | ネットワーク | 社民市民クラブ | 福政市民クラブ |
|--------------------------------|-------|-------|-----|---------|-------|--------|---------|---------|
| 主な議案 賛成=○ 反対=● | | | | | | | | |
| 市税条例改定案 (年少扶養控除 廃止にともなう) | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 一般会計補正予算案 (市事業の 派遣会社委託等) | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

ありま精一さん



全市で懇談

「公約違反の吉田市長を市民本位の市長にかえよう」とがんばるありま精一さん。市民との懇談を重ねています。